

# 第83番札所 神毫山 大宝院 一宮寺

## — 神仏習合の時代の面影を落とす、歴史ある寺 —

本尊：聖観世音菩薩（秘仏）  
所在地：香川県高松市一宮町607  
TEL：087-885-2301  
宿坊：なし



高松市郊外に佇む一宮寺。楠の木を取り囲むように諸堂が並ぶ境内は、周囲の喧騒をよそに、どこか落ち着いた雰囲気、穏やかな空気に包まれています。

寺伝によると、飛鳥時代の大宝年間（701～704）の間に、義淵僧正が創建し、当時は大宝院という法相宗の寺でした。のちの和銅年間（708～714）に、讃岐の国の一の宮として田村神社が建てられた際、この田村神社の管理経営を行う別当寺となり、この時、別当職であった行基が堂宇を修復して、寺名も一宮寺に改めたと伝わっています。その後、大同年間（806～810）に、弘法大師が訪れ、聖観世音菩薩を刻んで本尊として安置したときに真言宗に改められ、江戸時代のはじめに別当職を解かれ、神仏が分離しました。なお、この神仏分離の際、一宮御陵と呼ばれる3基の宝塔が移され、現在も本堂前に並んでいます。これらは桃太郎のモデルともされる五十狭芹彦命と、その姉の百襲姫命、二人の父である孝霊天皇の供養塔といわれています。

境内のシンボルとなっている楠の木の根元には、薬師如来をまつる小さな祠があります。ここに頭を入れると「ゴーツ」という地獄の釜の音が聞こえるといわれ、心がけの悪い人が頭を入れると、祠の扉が閉まり、頭が抜けなくなるという言い伝えがあります。日ごろの行いを思い返し、戒める意味も込めて、チャレンジしてみてもいいでしょう。

